

## 豪産小麦の使われ方は…

うどんの原料に使われるオーストラリア産小麦の利用状況を把握しようと、駐日オーストラリア大使のマレー・マクレーン氏(62)が20日、県内の製粉、製麺会社やうどん店を視察。訪問は半日ほどだったが、粉や麺の出来栄に「非常に効率的に製造され高品質」と満足感を示した。

同国大使館によると、駐日大使の県内視察は今回が初めて。2006年、製粉会社吉原食糧(坂出市林田町)のホームページに掲載された豪州訪問レポートを同氏が目にし、小麦やうどんに関する情報交換を行ったことをきっかけに、香川入りを決めたという。

## 駐日大使 製粉、麺会社を視察



製粉されたA.S.Wの状態を確認するマクレーン駐日大使(左)と吉原社長＝坂出市林田町、吉原食糧

マクレーン氏は大使館職員3人と同社を最初に訪ねた。吉原良一社長と県産小麦「さぬきの夢2000」や高速道路の休日値下げによるうどんの盛況ぶりなどに関して懇談した後、工場内を巡回。オーストメーション化された製造ライン、日本向けにきめ細か

さを重視した粉などを興味深げに確認した。同社での視察を終えたマクレーン氏は「消費者に好まれることも理解できた。今後も安定した供給を続けていきたい」と話した。この日は、同市内の製麺会社や高松市内のうどん店も視察した。